

毛筆作品 裏打ちの仕方 ～簡易版～

＜準備物＞

- ・天板が平面な板（長机・家庭科室の調理台・理科室の机・ガラス等）
＊表面がきれいで、平らなものであればよい。表面をしっかりと拭いて、きれいにしておくこと。表面に鉛筆やペンで書いたあとがあると、作品が汚れてしまいます。
- ・ハケ（２種類…水バケ・のりバケ）
- ・バット（２種類…水用・のり用 ボウル、洗面器等でも可）
- ・タオル又は雑巾
- ・和手ぬぐい
- ・デンプン糊（フエキ糊、ダイヤ糊など。袋入りがベストだが、最近あまり売ってない。ホームセンター、大型スーパー等にはある。ビン入り、チューブ入りでも、デンプン糊であれば大丈夫。）

＜糊の調合・作り方＞

- ① 糊一袋（４００ｇ程度）の半分強の糊に水５００ｃｃを少しずつ加えて、よく溶かす。ぬるま湯のほうが溶けやすい。薄いとはがれることがあるので、ある程度濃い方がよい。あとから水を張るので薄まる。
- ② ガーゼ等で裏ごしをするとベストだが、そこまでしなくても、よく溶かしてあればよい。

＜裏打ちの仕方＞

- ① 平らな面を水で濡らす。（作品が十分濡れるくらい）
- ② ①の上に作品の表を下にして、水に浮かしたように置く。水バケで空気を抜く。
- ③ のりバケで丁寧に外にもれないように、作品に糊をつける。
- ④ 作品と同じ質の新しい紙を作品と同方向にぴったり重なるように置く。
- ⑤ 水バケを使って紙と紙を重ねた間の空気を抜く。
- ⑥ 和手ぬぐいをロール状にしてコロコロ転がしながら、丁寧に水分を拭き取る。
- ⑦ 紙の周りからはみ出てきた糊を丁寧にタオルまたは雑巾で拭き取る。
＊これは重要！はがれやすくするために行う。

＜その他＞

- ・子どもたちが「洗って落ちる墨」など、洗濯で落ちやすい液墨を使っていないか、確認してください。裏打ちをすると、字が消えてしまいます。
- ・書いた作品は、少なくとも１日はおいて裏打ちしてください。慌てて裏打ちすると、にじみます。
- ・気象条件にもよりますが、約１日で乾きます。窓を開けると乾きはよいですが、知らぬ間に吹き飛ぶ可能性もあるので、注意してください。上手にできたら、翌朝には紙の端の方から自然にはがれてきています。
- ・失敗した場合のことも考えて、締切１日前には完成するような心づもりで。
- ・平らな面からはがれないときは、霧吹き等でぬらしてはがしてください。

＊夏季書写指導者講習会でも毎年「裏打ちの仕方」について講習を行っていますので、ぜひご参加ください！